

風水にふれる里20115。1

# 



「ジャバラ大根作りに励む佐藤正芳さん」

### **300**

議長新年の挨拶	2P
12月定例会	3P
議員提案	
一般質問	·····5~11P
所管事務調査報告	······12~13P
生産者の声	14P



## 12月定例会

- 12月定例議会が10日から11日まで開催されました。
- 26年度補正予算6議案を含め、13議案を原案通り可決・承認。
- 一般質問では、7人の議員が村政全般について、村当局の考えをただしました。

- ★大蔵村特別職報酬等審議会条例の一部改正
- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正されたことによる
- ★大蔵村特別職の職員の給与に関する条例の一部改正
- 人事院及び山形県人事委員会において特別職に係る期末手当の引上げが勧告されたことによる
- ★大蔵村教育長の勤務条件に関する条例の一部改正
- ・人事院及び山形県人事委員会において特別職に係る期末手当の引上げが勧告されたことによる
- ★大蔵村一般職の職員の給与に関する条例の一部改正
- 人事院及び山形県人事委員会において一般職の職員の給与を改定する勧告が行われたことによる
- ★大蔵村国民健康保険条例の一部改正
- 健康保険法施行令の一部が改正されたことによる
- ★財産の無償譲渡
- 国有林野整備臨時措置法により払い下げを受けた山林について、白須賀地区自治会に譲渡するもの

### 補正予算

- 一般会計補正予算2,600万円を追加し総額35億2500万円となりました 主な補正内容
- ・農地集積事業、農業基盤整備促進事業などを追加

### 平成26年度 特別会計の補正額と総額

(単位:千円)

会計名	補正額	総 額	主 な 補 正 内 容
国保会計	100	473,250	総務費(一般管理費)の追加等
簡易水道	△19,836	117,164	水道管移設工事の延期等
下 水 道	728	155,728	下水道管理費(消費税)の追加等
診療 所	1,260	221,955	一般管理費(使用料及び賃借料)の追加
介護保険	57,595	384,956	保険給付費(施設介護サービス給付費等) の追加

万にとっては、 ・と共に 苦労が絶えない年末年始になっており め 思いもよら 力 ぬ \*\*大雪に見舞-上げ ます h 厚く わ お 礼 n

民は

の突

忠己

義廣

上

口

峿 幹

長 よ

副議長 鈴木 ţ 君德 1

施策の実現に 源とも言われており 概算金が8500円 また、 -年並みに確保され 化等により従 れること 海外経済の減速や円安基調等をはじめ、東日本大震災の 来の ら地方財政はよ で、 を寄せるも 昨年に比べ3500円 国内流通の安定を維持するため いては在庫調整が効かない 形県の主力銘柄である「はえぬ 状況となり の整備など特に の大幅下落となり ます が、 人 D 減少の 今後も基幹産業であ 集中復興事業費など 米は日本の農業を支える を申し上げます 真の農業再生に 0 販売ル -産米に に、 月 村に 対 籾 る農 が多 する

け

(議席番号順

の多

海藤

南

3 おおくら 議会だより 第102号

## 減反政策廃止後の農政は

足腰の強い農業経営体を

勝 議員

## 止する方針を打ち出してい整の柱となる減反政策を廃 国では、 米の生産調

現象、 は、 に減反政策の廃止となれば 危機的な経営を強いられて 農家は廃業も視野に入れた しい事でもあるが、米余り 全体に米を作付け出来る事 ることが予想される。農地米の作付面積が大幅に増え これらに追い打ちをかける いるのが現状である。これ 価格の下落等で米作り ある面にお 直接支払交付金の半 いては喜ば た場合、 な取組をして行くの

になる。 組むことになり、米の直接団体等が一体となって取り 支払交付金が4年後に廃止 分に頼らず、 に行政による生産数量の配 行われ、平成30年度を目途 や経営安定政策の見直しが

### 提案 員

衆参両院議長・内閣総理大臣・各担当大臣に意見書提出(趣旨のみ掲載)

## ためにも、 方的な事業方式・ガバナンス制度や法人形態の転換等は強制 を維持すること。 目的に位置付け、 しないこと。 JA・連合会の協同組合としての事業・組織を制約する

## 揮できるよう、 央会は、代表、総合調整、 自立したJAの自由な意思に基づき生まれ変わる新たな中 農協法上に位置づけること。 経営相談・監査の機能を十全に発

## 年金削減の取りやめと 最低保障年金制 度の実現を

求める意見書

自動的に連続して引き下げることを意味し、高齢者の生活設計 ことを考えています。 これは、25%という大幅な引き下げに留まらず、 年金を毎年

済スライド」を本来は想定されていないデフレ下でも適用する

政府は、「25%年金削減(3ヶ年)

政策に続いて、「マクロ経

Aグループの自己改革をふまえ、 政府は農政改革にかかる法案づくり等を進めるにあたり、 地域の振興や農業の多面的機能の発揮についても農協法の 准組合員は農業や地域経済の発展を共に支えるパ 人口減少への対応や雇用の創出など「地方創生」の 准組合員の利用制限は行わないこと。 事業目的の見直しは協同組合の基本的性格 次の事項を反映させること。

障年金制度」の実現を図ることと考えます。

見直しを行わず、制度を廃止すること。

最低保障年金制度の実現にむけた検討を開始されたいこと

新たな年金引き下げに直結する「マクロ経済スライド」

者をなくすために、国連からも再三勧告をうけている

年金の引き下げではなく、

低年金·無年金

「最低保

農政改革に関する意見書

# 「手話言語法」制定を求める意見書

「手話は言語」であることが明記されている。 (平成18)年12月に採択された国連の障害者権利条

れる」と定められた。 その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保さ 法」では「全て障害者は、 障害者権利条約の批准に向けて日本政府は国内法の整備を進 2011 (平成23) 年8月に成立した「改正障害者基本 可能な限り、 言語(手話を含む。)

究する事のできる環境整備を目的とした 策を義務づけており、手話が音声言語と対等な言語であること を制定することが必要である。 を広く国民に広め、 また、 同法第22条では国・地方公共団体に対して情報保障施 自由に手話が使え、 聞こえない子どもが手話を身につけ、 更には手話を言語として普及、

不安である。 家がどの位いるのか非常に っても米作りを継続する農 要となる。又、そこまでや をしなかった田を復田する と思うが、 には多額の費用と労力が必 地域によって違いはある 何十年も作付け

である。 地域格差が生じる事は必至 あるが、農家全体を見れば を入れている事は大切では 経営や特定品目の栽培に力 この様な問題に村はどん 今の農政は、 全て大規模

ている。

生産量や後継者も増え

答1 国において生産調整 行政・生産者

地域格差につ

変厳しい状況にあると考え は、生産農家にとって、 算金が大幅に下落したこと 農協が生産者に支払う概

> 興してきた。県の補助事業 過剰や米価の下落が予想さ や村の補助金等の効果もあ や耕作放棄地の増大に繋が が廃止されれば、米の生産 い施設園芸作物を強力に振 しており、 ることを危惧して 本村は農業を基幹産業と 4年後に生産数量の配分 営農意欲の減退・離農 米だけに頼らな いる。

ていく。 産に取り組む農家を支援し 団地化を図り、園芸作物生 と共に、畑地化した農地の 備事業を積極的に推進する また、 県営による基盤整

か。

農業に取り組むことにより、 域の特性や資源を生かした いては、 やそれに不 間地には、 地

> 5 考える。 は急務であり、最大限の努に意欲のある担い手の育成 経営体を作る考えである。 併せて水田活用の観点か 飼料米の作付けや農業 足腰の強 **暖の強い農業** 最大限の努

問2 減反廃止になった時、 が図 るの・ を確立し、農業の安定化を ている農協が真剣に協議し 物の販売を一手に引き受け 責任ではなく、行政と農産 計画的な作付けや流通機関 も行政の役目と思う

山間地にあった作物を選定思っている。山間地には、業や観光にも打撃があると を推進していく。また、 Ļ 補助金を活用した施策 農家の景気悪化は商

央に訴えていく。山間地の農家救済対策を中

配する。 菜の作付けの拡大、ワラビ棚田米やりんどう・伝承野 産業化等を支援するための 可価値を付けるための6次 等山菜の特産化 格差が生じないように意を 限界のある山

5 おおくら 議会だより 第102号

来不安や失望感から自ら命を絶つ人々が増えないかと憂慮にた

高齢者の孤独死や孤立死が報じられていますが、

から脅かすものです。

を破綻させて将来不安を招き、

年金生活者の

「生存権」を根底

えません。

いま必要なのは、



君德 議員

挑戦することです。この姿 優しく・元気な村づくりに えています。

私の村政に臨む基本姿勢

対話の中から明るく・

度で測るものでもないと考 を「参加者の数」という尺 から押し付けるものではあ

りません。また、その成果

旨のものであり、

開催を村

政に活かしていこうとの趣 区からの声をお聞きし、村 のあった地区に赴いて、 そも、村政座談会は、要望

般質問

### 村政座談会について

対話の中から新しい村づくりを

と思う。年に一度の座談会

一人でも多くの参加者

地区全体での開催と

原因として考えられるの

に問題があり、

全地区での

座談会での内容にある

参加者が少なくなってきて 開催に至っていないことや

いるとの指摘ですが、そも

なるよう今後に期待するも

この先も続けてい

年参加者が少なくなったり

また、開催しても毎

政座談会を開催しています 勢として、毎年欠かさず村 住民総参加の村政を基本姿 それ以来、直接対話による ら村政を担わせていただき

八照皇大神

さて、その座談会の内容

会を開催しない地区があっ

て村政座談会を開催してい

しかしながら、座談

公務に忙しいにもかか

答 私は、平成19年5月か

毎年各地区におい

## 営農飲雑施設の今後について

予備的な施設として管理する



幸夫 議員

取水施設に問題があり、

々な工法を検討し改良を重

取水地がシラス層

試験的に使用した結果、水 区水道」の水源が不要とな 道が完備され、元「豊牧地 変な苦労をしてきた。 量も充分であり臭気や濁り ったのを機会にその水源を その後四ヶ村全集落に水 以前の様に活性炭

備された。 環境の改善を目的に「四ケ 地域総合整備事業」 水施設」は、県の「中山間

没や浄水施設の損傷が激し の流出等で、取水施設の埋 融雪期や降雨の際には土砂 表流水を水源としていた為 く、施設の維持管理に苦労

水道組合」より、 平成20年から「豊牧簡易

河川に露出している送水管 や管理用道路の崩壊などで して管理するのであれば、

認できた。 の交換も必要ないことが確 平成20年から現在の水源

16年度から供用開始したが問1 営農飲雑用水は平成

理費の削減になるのではな の電気代を支払ってでも管 しており、 トラブルもなく順調に推移 に切り換えてからは、 今後ポンプ使用

答 1 「四ヶ村営農飲雑用

に活用するのか伺いたい。

い営農飲雑施設をどのよう

村簡易水道事業」として整 で農村

当時は 「古水川」支流の

問2 今後とも予備施設と

また、現在使用していな

される。 からの補助金の返還も予想

埋設された導水管の露出は を行った結果、河川部分に 村の担当職員が現地調査

起きた場合の予備として維 見られたが破損は無かった 簡易的な補修で今後

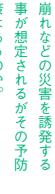
沢水源」の譲渡を受け、 水量とも良好で安定した水 源を変更してからは水質・

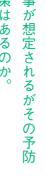
仮に使用されていない施設 を撤去するとなれば、多額 導水管が約2300m や導水管と思われるが、河 の費用を要すると共に、 川や道路に埋設されている 現在使用していない施設 河川からの取水施設 ある。

その除去作業に担当者は大 の網目が詰まり、その都度 大量の土砂が流れて取水槽 のため融雪期や降雨の度に

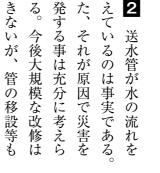
策はあるのか。 水流が変わり、 大きな土砂

答2 送水管が水の流れを 尚、参考までに全部撤去 今後大規模な改修は















おおくら 議会だより 第102号 6

おおくら 議会だより 第102号

問1 村ではスポーツ振興



加藤 忠己 議員

般質問

## ふるさと納税に関する 基金条例の制定は

制定は必要と考えている

始され6年が経過している 金を活用した事業を実施し 寄付する傾向が強くなって 礼品に魅力のある自治体に 品が取り上げられると、謝 されたと思う。しかしマス に貢献する制度として開始 自分のふるさとを大切に思 行うべきであると思う。寄 実績報告をホームページで えるべきではないのか。 寄付された方々の厚志に答 早急に基金条例を制定し基 れてはいるが、今後も増え に寄付金の活用事業が示さ コミ等に納税の特典や謝礼 い寄付と言う形でふるさと てくると思う寄付金に対し また、年度毎に寄付金の 村においては寄附申込書

込みを頂いている。

年度毎の寄付金の実績報

から802万8千円の申し 月現在では、457人の方 全国から寄付が寄せられ12 用サイトに登録したところ、

対するお礼品を整備し、専

を提案させていただく。 成27年3月議会に関係条例 そのような考えであり、 と言う事については、

今年度、

ふるさと納税に

検討する。 申込みのクレジット決済に 行う予定である。 告については、今年度より 寄付金の

低公害者を導入すべきと思

使用状況、

テム利用の考えは

## スポーツクラブ指導者に光を

支援をさらに充実する



正一 議員

れ目なく多彩な活動が行わ に力を入れ、年間を通じ切

れている。特に幼少期のス

ツ少年団、中学の部活

整えるべきと思うが。 チの方々の努力が見過ごさ チの方々が思う存分に指導 れているように思う。コー このような観点から見る きる環境と体制づく 学校での部活動とは別 一般の善意によるコー りを

そのお蔭で、 週のように活動されている ン・バレー等、各施設で毎 め各種大会において立派な 現在、夜間や休日な 卓 球 • 中体連をはじ バドミント

る。 保、スポーツ少年団の活動 の貸し出し等活動拠点の確 学習センターの使用、備品 より感謝と敬意を申し上げ たられている成果の賜と心 事の合間をぬって指導にあ 指導者の皆さんが仕事や家 今後とも学校開放や生涯

援を充実していきます。 費助成、指導者研修等の支

ある、

同時に、競技におい

心も求められる。

ては常に上位を目指す闘争

ど、学ぶべきことが数多く

団体競技での協調性な

仲間同士の付き合い

スポーツを通じた 技術の向上はも



成績を収めていることは、

現在行っているが、学校の

動の各種大会等への送迎は

学校管理下での部活

べきでないか。

にもAEDの設置を考える

バスの支援できないか。ま スポーツ活動について送迎 問2 学校の部活動以外の

た、大蔵中学校第2体育館

ポーツ活動については難し 管理を離れたところでのス

考えていきたい。 整し設置を検討する。 設置については中学校と調 い。今後各方面と協議して A E D

## 公用車の小型化と 冬期間、 対応に不安 低公害車を 自然災害

ふるさと納税制度が開

答 大蔵村を応援してくれ

も早急に基金を作るべきだ る方々の厚志に答える為に

公用車として十分であると 員が乗車する事は少なく多 に配慮する為にも小型車と 能や安全性が向上しており が6台ある。使用状況は定 車が乗用車8台、 くの利用は1名か2名であ 小型車や軽自動車は性 村にはバスを除き公用 維持費の軽減や環境 軽自動車

答 公用車の買替えの基準 来るのか不安がある。 安全性が確保出来れば継続 として11年経過を目途とし 事や自然災害時の対応は出 型車であるが、しかし村は 軽減するという観点では小 全国屈指の豪雪地帯である についても同じ考えである。 して使用する。村長専用車 維持費や環境への負荷を



9 おおくら 議会だより 第102号 おおくら 議会だより 第102号 8

## 下落による種子代助成を

ならないよう種子代の助成

見た時、生産意欲の低下に

農業経営の厳しい現状を

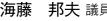
を考えるべきではないか。

本村農業の基幹作物で

問 インターネット等によ

兼ねてふるさと納税の謝礼

種子購入費の助成検討



般質問



## 災害時の相互応援協定はいかに

埼玉県戸田市との協定を進めたい

また、



八鍬 信一 議員

震度5以上が現在で9回あ 震が発生し、26年だけでも

建屋崩壊・人的被害が

最近、各地で頻繁に地

の応援協定が必要と思われ るべきであり、他市町村と 今、再度災害対策を検討す 意識も薄れかけてきている 大変な事態となった。 生産出荷と広範囲に影響し も重要な燃料が不足。暖房 ・車での移動・園芸野菜の 当時の災害に対する防災

安全確保に力を入れている。

の舗装整備を早急

援は難しく遠方地域が有効 被災者等の支援)を締結し 応援協定」(物的・人的・ 町村との、災害時の「相互 しい村連合」を中心とした 災害時の近隣の応 ついては、 「災害時の相互応援協定」とは

と思われることから、

災害発生時の応援復旧に関する支援 について、市町村の間でお互いに文書で取決めすること。

容の取り組みは行っている。 りませんが、そのような内 する町村と協定締結ではあ また、 災害時の相互応援協定に 埼玉県戸田市との 現在連合に加盟 主な協定内容

1 医薬品の供給
2 食料品飲料水、日用品の供給 3 被災者受入れ 4 職員派遣

答 今年も自然災害の恐怖 災組織の立ち上げを支援し、 と考え、大蔵村では自主防 にも日頃からの備えが重要 りません。人命を守るため るところです。 きな災害もなく安堵してい りましたが、大蔵村では大 を感じさせられた1年とな いつどこで発生するか分か しかし、 地震等の災害は

多発している。

本村も電気・水が止まり最

東日本大震災においては

おり、今後、「美しい村連 応援についても話を進めて 連携を進め、災害発生時 市との友好を深め安心安全 合」に加盟する町村や戸田

備事業」も進み終盤に入る

「赤松通り地区基盤整

答 「村道赤松滝の沢線」

については、赤松3期ため

村長

28年に舗装予定

行われ、

大型車両の通行が

多くなっている。

池事業や赤松山治山工事が

5 物資輸送. 人員移送

道「赤松・滝の沢線」につ わけですが、付替えした村

穴だらけの状況にあり、 両の通交に大変な支障をき いては未舗装のままで全線

作業等に影響することの無 たしている。 県との話を進め、

春の

面の傷みが激しくなること

砂利道の補修をしな ため池等の工事終了

では、舗装工事を完了した

県農村整備課との話の中

としても工事車両により路

るべきと考えるが。 いよう早急な舗装工事をす

> がら、 から、

実施することにしている。 後の平成28年に舗装工事を

よう、 購入費の助成を考えている 策として次年度の水稲種子 さらなる農家の支援

# ふるさと納税 人蔵 大賛成

債を抱えて困窮している。 価下落の影響が大きく、負

規模の大きな農家ほど米

落に繋がったものと考えら

いるため、大幅な米価の下

ある。大量の在庫を抱えて 素直に喜べないのが実情で

的に稲作経営に取り組める

うことなく、

今後とも持続

村内農家が営農意欲を失

今年の米情勢は豊作を

るのにも困窮している様子 るようだが、 である米や酒等を贈ってい ければと願っている。 でもあり、 をもってもらえる良い機会 とは大変嬉しく、 が、今年は大幅に増えたこ るふるさと納税の申し込み 謝礼として村内の特産品 米余りの状態で売 観光にも結び付 今年は米価も 村に関心

落対策経営安定資金制度」 対策として「大蔵村米価下 営の維持安定に向けた資金 もある稲作の再生産及び経

である。

するためにも、 村内産の米を有利に販売 米のPRも

答 落したことから、農家経営 っていく。そうした意味で 安定を考え有効な支援を行 きではないか。 としての米の量を増やすべ の米を増やすことは大賛成 ふるさと納税に村内産 米価が極端に下

ユース、肘折温泉宿泊補助村内産米と地酒、トマトジ して人気を得ているのが、 ふるさと納税の謝礼品と

検討したいと思う。 特色のあるものが人気です 券などがあり、米について すべきか、生産者と一緒に ベ比べができる米セット等 のような特徴や魅力を付加 村でも、村内産の米にど 「四ヶ村の棚田米」や食

と思う。 意を配した取り組みを進め も有利に販売できるよう、 きるのか重大な局面にある にとって今後経営継続がで 米価が、 村内産米を少しで 下がり稲作農家



11 おおくら 議会だより 第102号

研修してきました。 置する(株)カドワキで10月に 興について、 茨城県日立市に位

様の信頼に応えて、 工については特化した技術を持 産業界はもとよりユーザーの皆 まで一貫した生産体制を整え、 年の創業以来、素材から完成品 の製品を製造しています。 このような中、「カドワキ教 が会社を立ち上げて、 「カドワキ」は村出身者の方 幅広い分野において高精度 特に歯車加 昭 和 39

齢化、 ます。 教育を巡る状況の変化の中で、 振興を図ることを目指しており に奨学金貸与を主体とする教育 た財源を基に村内の子弟を対象 れ(株)カドワキから寄付され 育振興会」は平成20年に設立さ 現在、 情報化等の急速な進展や グローバル化、少子高

> の更なる活性化に繋がるよう、 識の習得が求められています。



努力をして参ります。

ていました。 面目に書く」を唯一の憲法とし ことを愉快に、愉快なことを真 引用し、「難しいことをやさし である井上ひさしさんの言葉を て連続入賞を果たしています。 「優秀賞」と努力と実力をもっ 「最優秀賞」、 編集方針は、本県の著名作家 やさしいことを深く、深 25年度第28回は

を使わず一般用語に振り替えて、 ることを心がけています。 小学5年生でも読めて理解でき さらに、 広報内容は行政用語

> が広報委員の責務としていきま 広報刷新に向けて進めて行くの 民をモニターとした調査をし、

研修し、発行するだけでなく村

修を重ねていました。 優秀広報議会を訪問し詳細な研 会主催の広報研修会をはじめ、 全国町村議会・山形県町村議

未来を担う人材育成と教育振 なかで、 と能力を備えるためには、これ また、高度多様化する社会の 適切に対応できる資質

広報編集と住民評価に

『こんにちは庄内町

庄内

24年度第27回全

ル

総務文教常任委員会

論を交えながら、そして、地域 を担える人材の育成が図られる とする(株)カドワキの先進的 まで以上に能力の向上や専門知 ように、今後も村と積極的に議 な取り組みを参考に、村の未来 本村においても、実務を基本



## 請 願

請願第5号

農協改革に関する請願 採択

請願者 結果

0)

事

ました。

いて、

特産品の赤ネギ(レッドポアロー)につ

産業建設常任委員会

10月に茨城県城里町にて調査してき

町坏地区では自家採取により栽培され、「赤ネギ」について、江戸時代からば

江戸時代から城里

は低下していることだそうです。

現下の厳しい農業情勢に対応するために

地としてのブランドは残るものの市場価格 改良された他の銘柄産地が出現し、発祥

三つ目としては、種子流出を含め、品種

別

は、経営者である農家が、

いくらかでも農

名圷ネギと呼ばれる茨城県三大伝統野菜の

一つで、

軟白部が赤紫色になることが最大

代表理事組合長市出形もがみ農業協同組合

泰

請願第6号

村道1 2号線 (作の巻線) 路線変更と改良工事の請願

結果 採択

請願者 作の巻地区

代表 安

彦

勲

請願第7号

度の実現を求める請願 年金削減の取りやめと最低保障年金制

結果 採択

請願者

全日本年金者組合新庄支部

儀

徳

手話言語法制定を求める意見書の提出に 請願第8号

関する請願

山形県聴覚障害者協会

野 邦

ことです。

### 担等により生産コストの低減が難しいとの 歳から70歳の高齢者でもあり、後継者がな かなか出てこないため、 年間50トンほどの生産量があるということ 不安があるそうです。 二つ目としては、品種特性に伴う特異作 課題の一つ目として、 (仮植選別・長在圃期間)、収穫労力負 一戸当たり平均15ア 生産者の大半が60 持続的生産体制に ールの規模で

です。

が 16 戸、

レッドポアロー研究会」において、

農家数

料理、

その鮮やかな色味を生かしサラダや薬味で

も使われるそうです。

その概要は、

生産部会「JA水戸かつら

が少ない上、煮ると葉まで柔らかいため鍋

味噌汁の具として重宝されるほか、

きます。 ながら、 うです。

には那珂川流域の沖積土壌が適しているそ の特徴であり、これを鮮やかに発色させる

それには農業関連の情報も必要不可欠と考 方を再認識することが大事でありますが、 業所得向上につながるように努力し、考え

え、今後も関係機関と更なる連携を密にし

村農業発展のため努力を重ねて

根深白ネギに比べ甘みが強く辛味

## 議会です』は山形県コンクー 国町村議会広報コンクールで 特選をはじめ、 町議会広報 ついて研修してきました。 る庄内町議会広報常任委員会を 11月5日、議会広報研修によ

庄内町議会広報の企画編集を

材の育成が急務となっています。 予測が困難な時代を生き抜く人

議会広報調査特別委員会

## 干し大根(ジャバラ切り)作り

### 佐藤正芳はん 藤田沢

と思う。

- A 0 20年位になると思う。 作り始めて何年になりますか?
- 0 干し始めてから何日かかりますか? また一冬に何本位作りますか?
- A 正確に数えた事はないが約1500本位だ 干し始めて3日位かかります。
- 大蔵村で何人作っていますか?
- 12~3人だと思う。

A 0

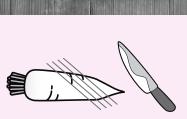
大変なことは何ですか?

**Q** 

A

大根の種蒔きから収穫や乾燥まですべてが 手作業である事です。

冬場の仕事で高齢者でも出来るので皆さんも 考えてみてはいかがでしょうか。 最後に一言お願いします。



# 简整 排 選 長

贈呈されました。 た方に贈られる総務大臣表彰状が柿﨑幹雄議長に 地方自治の発展に顕著な功労があったと認められ 町村の議会議長として、通算12年以上在職し、

ました。 副大臣をはじめ、大臣政務官、衆・参議院総務委 員長などが列席され、二之湯副大臣から贈呈され 表彰式は、10月3日に東京都内で行われ、総務

されています。 続8期村議会議員として村、議会の発展にご尽力 柿﨑幹雄議長は、 昭和58年4月に初当選され連

会議長会会長などの要職を歴任されてきました。 山形県町村議会議長会会長、北海道・東北町村議 また、これまで最上地方町村議会議長会会長、

躍を祈念い 益々のご活 たします。





ありません。 球温暖化の問題は時間の猶予が 被害に遭いました。忍び寄る地 くの自然災害に遭い多くの方が 土砂災害、それに大雪と雹、多 風に地震、火山の噴火、豪雨や ませスタートするものです。 確実に良い年になると胸を膨 様々な目標をたて、去年よりは 今年はこんな年にしたいとか しかし去年の日本列島は、 新しい年を迎える時、 誰でも 台

りは見ているよと言われます、 議会だよりの編集を目指し、 る時です。今後もわかりやすい 議会だよりの重要性を再認識す なかなか行けないけど議会だよ 行に努めていただきたい。 ミクス、地方創生と共に政策遂 に勝利した自民党には、アベノ 心配事は多くあります。衆院選 雇用や社会保障、米価の下落等 村民の方より議会の傍聴には TPP、アジア隣国との外交

年でありますよう心より祈りま 平成27年が村民の皆様に良い 力致します。

広報委員 加 藤 忠 己